パートⅡ．旧約時代
4 章　カインとアベル

イントロダクション

1．「神の国と悪魔の国の葛藤」というテーマは、聖書の歴史哲学の中心である。
　(1) 今私たちは、このテーマを基に聖書を読み解く作業を行っている。

2．パートⅠ．葛藤の舞台設定（1～3 章）の復習
　(1) サタンは、悪魔の国を造るという目的をある程度達成したかに見える。
　(2) 神は、直ちにサタンを滅ぼすこともできたが、そうはしなかった。
　(3) 神は、創世記 3 章 15 節で福音の原型を示された。

3．パートⅡ．旧約時代（4～17 章）
　4 章　カインとアベル

4．アウトライン
　(1) 最初の殺人者カイン
　(2) セツの誕生
　(3) エノシュの誕生
　(4) 堕天使と人間の娘の雑婚

カインとアベルについて学ぶ。

Ⅰ．最初の殺人者カイン

1．女から誕生する人物の誰かが、「女の子孫」であり贖い主である。
　(1) サタンは「女の子孫」の出現を大いに恐れた。
　　①その人物が現れたなら、サタンの野望は打ち砕かれてしまう。
　　②そこでサタンは、女から誕生する人物の抹殺を計画した。
　　③旧約聖書は、サタンによるメシア到来の妨害の記録として読める。

　(2) アダムとエバに 2 人の息子が与えられた。
　　①カインとアベルがそれである。
　　②成長するに従って、2 人の性質が明らかになってきた。
　　＊兄のカインは、神に対して反抗的な性質を持っていた。
　　＊弟のアベルは、神を慕い求める性質を持っていた。
　　③アダムとエバは、アベルこそ「女の子孫」だと思ったことだろう。

2．サタンは「女の子孫」を抹殺するために行動を起こした。

①サタンは、アベルは「女の子孫」そのものではないかと考えた。

②あるいは、「女の子孫」を輩出する家系に連なる人物ではないかと考えた。

③そこでサタンは、神に反抗的なカインを用いてアベルを抹殺しようとした。

⑤ヨハネの福音書 8 章 44 節

Joh 8:44　あなたがたは、悪魔である父から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと思っています。悪魔は初めから人殺しで、真理に立っていません。彼のうちには真理がないからです。悪魔は、偽りを言うとき、自分の本性から話します。なぜなら彼は偽り者、また偽りの父だからです。

3．カインとアベルの対比（創 4 章）

(1) 共通点

①彼らはともに罪人であった。

②ともに、人類の堕落後、エデンの園の外で生まれた。

③ともに同じ両親から生まれ、同じ環境で育てられた。

(2) 相違点

①カインのささげ物は、信仰によるものではなかった。

②アベルのささげ物は、血のささげ物であった。

③「しばらく時が過ぎて」（創 4：3）とある。

＊その間、人口が増加した。

＊神からささげ物に関する啓示があった。

＊アベルのささげ物は、この啓示に応答する信仰に基づいたもの。

(3) 創世記 4 章の段階で、人間の前には 2 つの道が開けていたことが分かる。

①カインの道（神に反抗する道）とアベルの道（神に従う道）

(4) 最初の殺人

①カインは、アベルを人目につかない所に誘い、そこで彼を殺した。

②これは、人類史上最初の殺人であり、兄弟殺しである。

③新約聖書では、アベルの死は「義人の死」と解説されている。

＊マタ 23：35、ルカ 11：51、1 ヨハ 3：12

④神はカインに、「あなたの弟アベルは、どこにいるのか」と問われた。

＊これは、罪の告白を導き出すための質問である。

⑤カインは、「私は知りません」と答えた。

＊これは、人間が嘘をついた最初の事例である。

⑥カインは、「私は弟の番人なのでしょうか」と応じた。
＊彼は、神の質問は的を射たものではないと反論している。

(5) サタンは、アベル殺害によって、「女の子孫」の到来を阻止しようとした。
①それに対する神からの対抗策は、セツの誕生である。

Ⅱ．セツの誕生

1．創世記 4 章 25 節

Gen 4:25　アダムは再び妻を知った。彼女は男の子を産み、その子をセツと名づけた。カインがアベルを殺したので、彼女は「神が、アベルの代わりに別の子孫を私に授けてくださいました」と言った。

(1) セツは、アベルの代わりとしてアダムとエバに与えられた息子である。
①セツには、「定める」、「土台」などの意味がある。
②アダムとエバは、セツからメシアを輩出する家系が始まると考えた。
③「別の子孫」は、ヘブル語では「別の種」ということばである。
＊「種（ゼラー）」は「女の子孫」の「子孫」と同じことばである。

(2) この段階でのエバの理解
①アベルに代わる息子が与えられた。
②その息子は、「女の子孫」を輩出する家系の始まりとなる。
③エバは霊的に成長し、神の計画をより深く理解するようになっていた。

Ⅲ．エノシュの誕生

1．創世記 4 章 26 節

Gen 4:26　セツにもまた、男の子が生まれた。セツは彼の名をエノシュと呼んだ。そのころ、人々は【主】の名を呼ぶことを始めた。

(1) セツにも男の子が生まれた。彼はその子をエノシュと名づけた。
①エノシュには、「朽ちる人」という意味がある。
②セツは、人間存在のはかなさや限界を理解した人であった。
③詩篇 103 篇 15 節

Psa 103:15　人　その一生は草のよう。／人は咲く。野の花のように。

(2) そのころ、人々は【主】の名を呼ぶことを始めた。
①これは、定期的な公の礼拝が始まったという意味である。
②セツの家系に属する人たちの中に、霊的覚醒が起こったことが分かる。
③これは、サタンにとっては歓迎できない状況であった。

Ⅳ．堕天使と人間の娘の雑婚

1．別の戦略

(1)「女の子孫」を輩出する人物を殺しても、神は代わりの人物を立てるだろう。

①この戦略は無効なので、新しい戦略を考える必要がある。

②新しい戦略とは、神に反抗的なカインの子孫たちを大いに増すこと。

③彼らを通して、セツの子孫たちに悪影響を与えること。

(2) 創世記 4 章 16～22 節

Gen 4:16　カインは【主】の前から出て行って、エデンの東、ノデの地に住んだ。

Gen 4:17　カインはその妻を知った。彼女は身ごもってエノクを産んだ。カインは町を建てていたので、息子の名にちなんで、その町をエノクと名づけた。

Gen 4:18　エノクにはイラデが生まれた。イラデはメフヤエルを生み、メフヤエルはメトシャエルを生み、メトシャエルはレメクを生んだ。

Gen 4:19　レメクは二人の妻を迎えた。一人の名はアダ、もう一人の名はツィラであった。

Gen 4:20　アダはヤバルを産んだ。ヤバルは天幕に住む者、家畜を飼う者の先祖となった。

Gen 4:21　その弟の名はユバルであった。彼は竪琴と笛を奏でるすべての者の先祖となった。

Gen 4:22　一方、ツィラはトバル・カインを産んだ。彼は青銅と鉄のあらゆる道具を造る者であった。トバル・カインの妹はナアマであった。

①カインの子孫たちは、先進的な文明を築き始めた。

②その文明は、神に敵対的であり、一夫多妻と暴力を特徴としていた。

(3) 創世記 4 章 23～24 節

Gen 4:23　レメクは妻たちに言った。／「アダとツィラよ、私の声を聞け。／レメクの妻たちよ、私の言うことに耳を傾けよ。／私は一人の男を、私が受ける傷のために殺す。／一人の子どもを、私が受ける打ち傷のために。

Gen 4:24　カインに七倍の復讐があるなら、／レメクには七十七倍。」

①アダムから 7 代目のレメクは、神に敵対的な文明の化身のような人物。

②彼は、人類史上初めて、ふたりの妻をめとった。

③妻の名は、アダ（装飾、飾るなどの意）とツィラ（きらきら輝くの意）。

＊ともに、性的快楽を示唆した名前である。

④またレメクは、暴力的な人物であった。

(5) カインの子孫との交流により、セツの子孫の中に背教が広がっていった。

①これは由々しき事態であるが、サタンはさらに強烈な手を打った。

②それが、堕天使と人間の女の雑婚である。

2．堕天使と人間の女との雑婚

(1) 創世記 6 章 1～2 節

Gen 6:1　さて、人が大地の面に増え始め、娘たちが彼らに生まれたとき、

Gen 6:2　神の子らは、人の娘たちが美しいのを見て、それぞれ自分が選んだ者を妻とした。

①これは、堕天使と人間の娘の雑婚の記録である。

②「神の子ら」（ベネイ・ハエロヒム）ということば

＊ヘブル語聖書では、常に天使を指す（良い天使も堕天使も指す）。

＊ヨブ 1：6、2：1、38：7 参照

③新約聖書では、「神の子」は天使以外のものも指す。

＊アダムや信者

＊イエス・キリストもまた「神の子」である。

＊イエスの場合は「そのひとり子」と呼ばれる。

＊それは、イエスが永遠に存在していることを示している。

④堕天使と人間の娘の雑婚という解釈は、昔からあるユダヤ人の解釈である。

⑤ユダヤ人の歴史家ヨセフスの「ユダヤ古代史」（紀元 173 年）

＊「神の子ら」（ベネイ・ハエロヒム）を「天使」と解釈している。

⑥「人の娘たち」とは、人間の女のことである。

＊この中には、カインの系列の女も、セツの系列の女も含まれている。

⑦堕天使たちは、「それぞれ自分が選んだ者を妻とした」。

＊これは、堕天使と人間の雑婚を表している。

(2) なぜサタンは、堕天使と人間の女の雑婚という策略を採用したのか。

①人間の女の中にある「神のかたち」を破壊するためである。

②異常な人間を誕生させ、「女の子孫」の誕生を妨害しようとした。

結論

1. **サタンは、アベルを殺し、「女の子孫」の家系を断ち切ろうとした。**
2. **しかし神は、アベルに代わる人物として、セツを誕生させた。**
3. **セツにエノシュという息子が誕生した。**
4. **セツーエノシュという家系は、霊的覚醒を体験する信仰者の家系である。**
5. **カインの子孫は、神に敵対する文明を築いていった。**
6. **サタンは、人間の「かたち」を歪めるために、堕天使を人間の娘の雑婚を推進した。**
7. **これは「女の子孫」の誕生を阻止するためにサタンの策略である。**
8. **それに対する神の対抗策は、地球を覆う大洪水である。**